



2017年1月15日 発行

2017年冬号

<第37号>

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/池田直樹 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881 FAX06(6556)0882 info@works-union.org http://works-union.org/taiyo.html

特集

講師との活動

井上剛さんの事情

皆様に事情があります。最近、2016年1月でうちの母親は、入院のリハビリで家に戻れなくなりました。3月28日で、母親はこの世を去ってしまいました。俺は納得できない。お父さんと2人きりになりました。今後のことをお父さんと考えて一人暮らしをする。将来、俺はパークハイツに住みたい。一人暮らしはしたことがないので短期で体験してみる。初めての短期出張は俺はうれしかった。お風呂は火曜日と木曜日。朝食夕食平日。一人で寝るのは寝やすい。今後も続けていきたい。短期出張中の祝日、天王寺動物園も石清水八幡宮に行きました。これからも、皆さんと、ワークス集の仕事で朝から夕方まで、短期の泊まりなど続けて、働きます。頑張ってください。これからも短期出張を続けてください。

井上 剛

「生活介護事業所 講師との活動」

ユニオンの生活介護事業所「和」「匠」では、講師を招いて様々な活動を行っています。共通の活動としては、週1回のダンス、月1回の活動のファシリテーションボールメソッド（以下FBM）、不定期にバステルアートを行っています。また、「和」独自に月1回の書道、「匠」独自には月1回の創作アート、ブレインアップ体操を行っています。それぞれの利用者さんに寄り添いながら行われています。

【ダンス】

元吉本興業社員の経歴を持つ瀬口講師。ダンス前にはストレッチをしつかりして身体をほぐしてダンスに向かいます。また年1回は曲を変更し、新しい振り付けに挑戦しています。

【FBM】

尼崎でラジオパーソナリティをするなど幅広い活躍をしている大島講師。バランスボールを使い心身のリラクゼーションを促しています。

【バステルアート】

「まこりん」の愛称でみんなに親しまれている癒やしの佐々木講師。バステルを

削った粉で絵を描き素材で温かみのある作品を作っています。

【ブレインアップ体操】

子どもからお年寄りまで幅広い世代を対象に活躍されている若島講師。音楽に合わせて褒め合う、身体を叩いて刺激する。激しい運動後しっかりと休息するなどを行うことで脳を活性化させる活動です。

【創作アート】

個性的な恰好でみんなの心を掴み、楽しむことをコンセプトにしている田中講師。身近にあるもので作品を作り、その作品を使って楽しむ活動です。

【書道】

ユニオンの職員でもあり、プロの音楽家でもあった多才な嶋津講師。大まかなテーマは決めていますが書く内容は自由です。ゆつくり書くため個室で数名ずつ、交代で書いています。

▼講師を招いて活動するようになってから利用者さんになく3つの変化が見られるようになりました。

①利用者さんが作品を作ること、自分の気持ちを表していたこと。②利用者さんが活動の準備や他にやりたいことを講師に話すなど積極性が見られたこと。③私たちが支援者が想像していなかった新たな才能を見ることが出来たことです。

言葉などで表現することが難しい利用者さんが、字や絵を描く時には迷わずに筆を滑らせていることや、筆で書くことが難しいのではと、思っていた利用者さんが自分の気持ちを達筆に書いていたことには驚きまし

た。思い思い自由に作られた作品を見ると、個性に溢れており、どれも感慨深いです。

講師活動がある時間になると、活動で使う部屋の掃除を始めたり、使う道具を並べたりと講師の活動が待ちきれない様子が伺えました。活動が終わった後には、「次先生いつくるの?」と聞きに行く利用者さんがとても印象的でした。また、講師に直接言えず職員に「次はこんなことやりたいな!」などと希望を言うことが増えてきました。

▼講師との活動は多くの効果もありますが、活動に参加しない利用者さんの過ごし方と活動の継続が課題となっています。

活動には参加せず、作業をして過ごす利用者さんが数名見られます。本人と話をすると、作業がしたいからではなく、作業以外にしたい活動が見つからないからだと分かりました。今ある活動の他に利用者さん一人ひとりにあった活動を考える必要があるのではないかと考えています。

また、講師の活動は現在月に1程度度行っていますが、中には継続して行うことで効果が大きくなる活動があります。しかし、現在は講師がいる時のみ活動を行っており、継続して効果を得られていない状態です。講師がいない中でも活動ができるように、講師のフォローを行い、職員の技術の向上や密な講師との活動計画が必要だと感じています。

(島村・川口)



月日が流れるのは早いもので、事務所の配置を換え窓際に席を移したのを機に「窓際おじさんのつぶやき」と言う小文を皆さんにお届けするようになって早や4年余り。

その時に「少しずつフェードアウトの準備をしようと思う。」と、宣言しておきながらその準備は遅々たる歩みで、まだまだ道半ばとなっている。

利用者に「おじいちゃん」と呼ばれれば、「ちがわー」と言い返しているが、還暦を迎え孫が二人もいるのだから「おじいちゃん」には違いない。引退するまでに皆さんが安心できるワークスユニオンにするためには、少しずつ歩みの速度を上げていかなければ間に合わない。

宣言した課題、①「決定権」も若い職員に順次譲る。②高齢期を迎えた人の安心で充実した暮らしの創造。「日中支援」、「生活支援」の両面での環境づくり。③自分の老後の楽しみとなるものを探す。

宣言した課題の進捗状況。①「決定権」も若い職員に順次譲る。」については、ワークスユニオンの現状と望ましい将来像を描いた上で、必要な「運営体制」を構築する必要がある。

本年度、運営体制の構築として、総務部、日中支援部、生活支援部の3部体制とし、それぞれの事業所のチーフに主任の名称を付与したが、利用者の年齢層の広がりや障害程度の幅を考えると、支援の部門については最低でも二分割、できれば三分割しなければ、一人ひとりの利用者に即したよい支援は提供できない。そのためには、それぞれの部門を統括できる人材の

育成が必要だ。職員のスキルの向上を見極めながら、体制を整え、トップダウンではなくボトムアップで物事が決められる組織体成長させたい。

②「高齢期を迎えた人の安心で充実した暮らしの創造。「日中支援」、「生活支援」の両面での環境づくり。」については、色々検討を重ねた結果、私たちワークスユニオンは「介護保険」のサービスには参入せず「障害福祉サービス」のみで支援体制を組み立てるべきだと結論に至った。

日中支援としては、「一般就労している方々のハッピーリタイヤ後の生活を支える。」更に「障害の重利用者の生活の安定を目指す。」ためには、現在の就労継続支援事業所二箇所・生活介護事業所二箇所の四事業所では不十分なので、それぞれの方々の特性を考えながら、こじんまりとした色々なタイプの支援の場を創っ

ていかなければならない。生活支援の場も、現在の四つの建物だけでは不十分で、とりあえず来年度中には、障害の重い人も、高齢期を迎えて、認知症になっただ人も安心して安全な生活を送れるバリアフリーでゆったりとした私たちの支援にふさわしい生活の場を一棟確保したいと考えている。

私たちワークスユニオンが掲げる「日中面も生活面も含むトータルなケアを一生に亘って提供する。」ための体制作りはまだまだ道半ばとしか言えない。皆さんのご支援を受けながら、一つ一つの課題を克服していききたい。

国は来年度より、「社会福祉法人制度改革」を打ち出している。

内容は、「経営組織のガバナンスの強化」、「事業運営の透明性の向上」、「財務規律の強化」、「地域における公益的な取組を実施する責

務」等が謳われており、ワークスユニオンでもこの制度改革に向けての準備を進めている。

今回の制度改革を通じて、国は社会福祉法人の淘汰も求めているように考えられる。おそらく運営基盤・財政基盤の脆弱な法人は淘汰されるのだろう。

保護者の皆さんには、「今のままのワークスユニオンであって欲しい。」との思いの強いことは、理解しているが、今後少し規模を拡大しないと法人の存続が危うくなるをご理解いただきたい。

③「自分の老後の楽しみとなるものを探す。」については、人様に羨ましがられるような高尚な趣味を見つけないとも考えたが、断念した。ハッピーリタイヤ後は、植物を育てることに没頭してしまうのだろうか（これは、ワークスユニオンにはまったく関係のない私個人のことだが、一応分析）。

「みんなで楽しむ
音楽祭」を終えて

私は今回、「福祉と関係のない研修」(第27号参照)で「みんなで楽しむ音楽祭」というイベントを企画し、9月10日(土)に旭区民センターで開催しました。

「利用者さん、保護者さん、職員や関係の方々、日頃の恩返しとして、音楽で楽しみを感じてもらいたい」という想いで臨んだ企画でしたが、当日は、元職員の鳥居さんが働く「ホッと」のダンスチーム「TOZ BABY」にも出演してもらい、UNION☆STRASとはい、私が生歌を歌ってコラボレーションするという貴重で楽しい時間を持てました。初めて練習で合わせた時の驚きつつも嬉しそうに踊る利用者さんたちの様子は忘れがたいものでした。

弾き語りコーナーでは、福祉の仕事をしていて音楽療法士でもある春歌さん、シンガーソングライターの

金木和也さんに出演してもらいました。曲を聴いて感動して泣いていた利用者さんがいて、「こんな機会をもらってありがとうございます」と支援者の方に言われたことが印象的でした。

私は同僚の嶋津さんにピアノでサポートに入ってもらい、オリジナル曲を含む5曲を歌いました。このオリジナル曲は、ユニオンに入ってから今までの想いを歌詞に込めたので、ユニオンに関わる方々の前で歌えたことはとても嬉しく、ありがたい機会でした。

また、舞台を見る利用者さんたちの熱気、笑顔溢れる客席をステージ上から感じられて、準備はとても大変でしたが、それに見合った幸せな時間を過ごさせてもらいました。(原)

職員紹介

湯川 隆司 (ちゅうがわ たかし) 生活支援課長

20代の頃は保育士で、障害のある子どもが、興味のあることへの集中力に驚きを感じた事が心に残りました。その頃友人が、養護施設で障害のある方と自然に接して働いている姿に興味を沸き、同じ様な仕事が見たいと18年前に決意したそうです。

生活支援の部長として「チームで気軽になんでも話し合える『風通しの良い職場』にしていきたい。」と語ってもらいました。好物は辛い物で、最近は

レトルトカレーの辛さ30倍とハラペーニョを汗をかきながら食べることにまっています。

神田 剛志 (かんだ つよし) 保育士

野球少年なら一度は憧れるプロ野球選手。その憧れを前職に持つ神田さん。選手時代のポジションは捕手でした。引退後はプロ野球選手のスカウトマンに転向。スカウトした選手の中には沢村賞や投手五冠王を受賞した選手もいました。今は少年野球チームの監督をボランティアでされており、そのチームが去年の夏の大会で全国優勝を果たされた(おめでとございました)。

野球以外の貴重な休日は奥様と買物に出かけ、服や靴・カバンなどを見て回るのが好きとの事です。全く違う職種のユニオンに入職して自分で変わったなあと感じることは「ひと呼吸」を置ける様になった事です。(岡本・助野)

編集後記

去年の7月に、我が家に子どもが産まれました。初めての子育てで、大変な事はありますが、それ以上に幸せや喜びを感じられることが多く、充実した毎日を送らせてもらっています。

保護者さんへ出産の報告をした際に、「子育てを経験する事で、保護者の子どもに対する想いが、以前よりイメージ出来るようになるのではないか?」との意見をいただきました。また、「親として子を思う気持ち、は、障害のあるなしにかかわらず、普通の想いです」とも話されました。

今までも利用者さん、保護者さんどちらの思いにも寄り添えるよう考えてきましたが、より一層深く考えられるようになると思えます。今後、子育てを通して支援観にいろんな変化があると思うと、とても楽しみです。(Y)